

みどりの食料システム戦略推進 に向けた農業技術の開発

宮城県では令和5年3月に「宮城県みどりの食料システム戦略推進ビジョン」を定め、「未利用資源の活用拡大」や「持続的生産体制の構築に向けた環境負荷低減の推進」などの目標を掲げました。

将来における持続的な農業生産に向け、試験研究機関において家畜排せつ物の利用推進やIPM技術の開発、エネルギーの効率的利用などの技術開発に取り組めます。

① 未利用資源の活用拡大



きのこ廃菌床をイチゴ養液栽培の有機質培地として活用



コーヒー粕を利用した雑草等抑制効果の検討



特殊肥料等入り指定混合肥料の効果検証
(指定混合肥料散布の様子)

② 持続的生産体制の構築に向けた環境負荷低減の推進

総合的病害虫・雑草管理技術の開発



環境調和型害虫防除技術の開発
(モンシロチョウの幼虫を捕食するゴミムシ)



雑草発生段階に応じた効率的な管理技術の開発
(アレチウリが発生している様子)



バイオ炭の農産物生育への影響と物理性の検証

温室効果ガスの排出を抑制する管理技術の開発



木質バイオマスボイラーと
燃焼室での薪の燃焼状況



断熱資材を用いた暖房負荷軽減



グローパイプを活用した
局所加温技術の実証

現地実証

普及センターと連携し
現地実証ほを設置

社会実装

研修会、現地検討等
の開催

農業分野における未利用資源の利用拡大、環境負荷低減の促進